

中高大連携が活発化

皇學館 学園報

第92号
令和4年9月



注目記事

- アカデミック** 2面
令和3年度 優良教育実践
中山教授、大杉教授、谷口准教授を選出
- アカデミック** 3面
令和4年度科研費に6研究が採択
- 地域連携** 4面
鳥羽商船と包括連携協定を締結
- カルチャー&スポーツ** 5面
クラブ応援メッセージ募金授与式を開催
- 高中トピックス** 6面
中高大でオープンスクール開催
- 7面**
令和3年度 収支決算報告
- アクティブスチューデント** 8面
世界的コントラバス奏者への第一歩!
大西梓菜さん(高3)が
Winnersコンサートに参加 ほか



発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

中高の生徒たちに学問の面白さや奥深さに触れ、学ぶ意欲を高めてほしいと、大学の教育資源を皇學館中学校・高校に展開し、さらなる教育環境の充実をめざす動きが活発化している。

中学校

日本文化部、未来理工学部活魅力化計画始まる

新学習指導要領において「文化部活動」は学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものと明記されている。本校はこれらの方針に沿った改革を進めており、今年度の事業計画として「塾や習い事を課外活動として学内で行う」等を目標に掲げた。



「ちゃ道」「さ道」といった読み方の違いや茶葉伝来の経路、歴史の概略などについて解説する浅沼教授

この計画に基づき大学と中学校で検討した結果、未来理工学部と日本文化部での連携が決まり、7月16日に本学教育学部の大杉成喜教授がプログラミング講習会、浅沼博本学特別招聘教授が裏千家茶道講座を開いた。



大学附属図書館の多読コーナー

中大連携事業の一環として大学附属図書館を積極的に活用し、英語の授業に「多読」を取り入れるべく準備を進めている。



数学の面白さを説く上野助教写真上。授業では学生も講師として登壇

また数学・理科・国語(書道)においても連携授業を実施。8月25日は3年生を対象に教育学科の上野祐一助教が数学、30日は同学科の澤友美助教とゼミ生の二宮功至さん(教育1)が「脊椎動物と無脊椎動物の体液について調べよう」とのテーマで2年生を対象に理科の実験を行った。9月6〜8日には国文学科の上小倉一志教授が全学年の生徒に書道の手ほどきをした。

西井優菜さん(3年)は「茶道の歴史や作法を教えてください」「温故知新」を感じた」と感想を語った。なお、日本文化部は大学邦楽部の学生からも週に1回程度、箏の実技指導を受けている。

今回の取り組みは今後も継続していく。

中大連携事業の一環として大学附属図書館を積極的に活用し、英語の授業に「多読」を取り入れるべく準備を進めている。

また、6月8日にはコミュニケーション学科のクリストファー・メイヨー教授が外国事情や異文化理解を深める国際交流プログラムの一環として2年生を対象に英語で授業を行った。テーマは「伊勢志摩国立公園におけるユニバーサルデザイン」。

また、6月8日にはコミュニケーション学科のクリストファー・メイヨー教授が外国事情や異文化理解を深める国際交流プログラムの一環として2年生を対象に英語で授業を行った。テーマは「伊勢志摩国立公園におけるユニバーサルデザイン」。

英語授業に「多読」を導入 数理科でも中大連携授業を実施

中大連携事業の一環として大学附属図書館を積極的に活用し、英語の授業に「多読」を取り入れるべく準備を進めている。



緊張する生徒に学生が優しくアドバイス

高大接続を強化 大学教授が講師として登壇

教育学科の上野祐一助教と本校の林教諭が5月24日、3年生の「数学III」で協働授業を実施した。今回は上野ゼミの学生も講師として参加し、充実した授業となった。

また、6月8日にはコミュニケーション学科のクリストファー・メイヨー教授が外国事情や異文化理解を深める国際交流プログラムの一環として2年生を対象に英語で授業を行った。テーマは「伊勢志摩国立公園におけるユニバーサルデザイン」。

高校

旧暦八月八日は守武忌である。令和四年は九月三日に当たる▼江戸時代までの皇大神宮の禰宜家は、澤田、蘭田、井面、佐八、世木、藤波、中川の七家が務めた▼そのうち、俳諧の祖として知られる荒木田守武は、蘭田家の人である。蘭田家は平安鎌倉時代を通じて振るわなかつたが、室町時代になつて祖父守房がようやく一禰宜に昇り、繁栄を手にした▼守武は十五歳で十禰宜に就く。これは、母方の祖父、藤波氏経が薨じたので、禰宜の空席を襲つたものである▼その後、順当に昇進し、六十九歳で一禰宜・長官に就いて、神宮経営に手を尽くした▼守武が生きた時代は、宇治山田合戦で山田が宇治を焼き払うなど混乱を極めていた。守武の兄・守晨も一禰宜に昇進したものの、御師ら新興勢力との確執の中にあつて在任わずか六日で自ら命を絶つたという▼そんな中で守武が「元日や神代のことと思はるる」とよんだのも神宮守護の心意気を表しているのとみれば、穏やかな軽みを連想するが、その誕生は乱世の束の間の楽しみであったか。祖を守り俳諧を守り守武忌 虚子。



宗林正人名誉教授が逝去

本学名誉教授の宗林正人氏が6月23日に逝去された。享年95歳。長年本学で教鞭を執ってこられた氏はアブラムシ類研究の第一人者として世界的に知られ、平成23年春には瑞宝中綬章を受章している(学園報33号参照)。

生前の本学園へのご貢献に感謝申し上げ、教職員一同哀悼の意を表します。

「によろ文字塾」学習会 参加者6名を表彰



「によろ文字塾」は大学附属図書館のくずし字学修支援企画で、楽しく学べる資料やコンテンツを使って「くずし字」の読解力を身につけることを目的としている。今年度は学習会の実施・manabaコンテンツの提供・「くずし字互版」の発行を3つの柱とし、学生の自学自習に役立つ学修環境の充実を図っている。

隔週で実施している学習会では研究開発推進センター教員と連携し、「伊勢御師関係文書」を読み進めており、今回6名の学生が5回参加を達成して表彰された。その一人、服部司弥さん(国史1)は「参加した当初はお手上げ状態でしたが、先生や先輩、同学年の人と楽しく文書を読んでいくことによってある程度辞書を引いたり他の文書を見たりしながら翻刻できるようになった」と喜び、横山大樹さん(国史2)は「ここで学んだ経験が生き、今では自分の力でもある程度くずし字が読めるようになった。目標は最後まで自力でくずし字を読みきることなので、もっと『によろ文字塾』で学び、経験を重ねたい」と意欲を語った。

「によろ文字塾」は本学学生であれば誰でも参加でき、様々なサービスを利用できる。興味のある学生はぜひ参加を。

問合せ●大学附属図書館

新任教職員紹介

令和4年7月1日付

- ①出身地・経歴等 ②趣味・特技等 ③座右の銘 ④一言メッセージ

企画部(皇學館サービス)事務嘱託

大山 あすか



- ①三重県 ②バドミントン ③一日一生 ④皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思ひます。

財務部会計担当 事務嘱託

澤山 文美



- ①三重県 ②ピアノ ③継続は力なり ④一つの作業に集中し、ミスのないよう取り組んでいきたいと思ひます。

神職養成部神職養成担当 事務嘱託

山下 華奈



- ①三重県 ②読書 ③一期一会 ④穏やかに、常に笑顔で心掛け、何事にも励んでいきたいと思ひます。

人事異動

退職 令和4年7月31日付 神職養成部神職養成担当 主事 鈴木 烈

配置換 令和4年9月1日付 大学事務局次長(企画部部長 兼務) 森 正樹

中山教授は初年次ゼミや皇学入門等における先進的なアクティブラーニングの導入推進に中心的な役割を果たしている。令和3年度は試験的に運用していたSA(スチューデント・アシスタント)を本格的に活用したことで学生の学修時間・図書館利用回数に著しい増加が見られるなど大きな成果を上げた。また、日本文化概説II・宗教学講義IIでアクティブラーニング・反転授業を実施し、アカデミックスキルの維持向上に取り組んでいる。これらの実績は令和5年度に向け新たな演習科目を設定する上で重要な指標となった。

コロナ禍で教員や他の学修者と直接顔を合わせる機会が制限される中、大杉教授はICTを最大限に活用し授業改善・学生指導改善に努めたとして高い評価を得た。学生たちはクラウド型教育支援システムmanabaやオンライン学習ツールGoogle Workspaceを使うことが容易になり、学修の進捗状況についても管理しやすくなった。まん延防止措置のため各ゼミでの実施となつた卒論構想発表会では教育学部3年生がオンライン開催の研究会に遠

効果的なグループワークの運用とSAの活用



神道学科 教授 中山 郁

ICTを活用した授業・学生指導 manaba Google Workspaceを使用



教育学科 教授 大杉 成喜

令和3年度 優良教育実践 中山教授、大杉教授、谷口准教授を選出

高い教育効果が認められた取り組みを表彰する「令和3年度優良教育実践」に神道学科・中山郁教授、教育学科・大杉成喜教授、国史学科・谷口裕信准教授の3名が選ばれた。

隔参加し発表や質疑応答を行うなど、大杉教授の授業で身に付けたICT活用とアクティブ・ラーニングの技能が発揮された。



国史学科 准教授 谷口 裕信

入学準備プログラムに manabaを導入し 基礎学力定着を図る

国史学科では高校日本史Bの基礎

的学力を定着させる入学準備プログラムを実施してきたが、採点や返送に手間と時間を要し当初の目的を十分に達成できない問題があった。谷口准教授はmanabaのドリル機能を利用して満点がとれるまで入学予定者が主体的に繰り返し問題に取り組む方法を導入。またmanabaに入学前から慣れておくことで、入学後の学修への速やかな移行をめざした。本実践は中期行動計画で定められている初年次でのLMSを活用した事前・事後学修の推進に寄与するとともに、高校と大学の学修を効果的に接続するものとして期待されている。

高野助教と長谷川助教を表彰

令和3年度 職務表彰



長谷川 怜助教



高野 裕基助教

皇學館大学創立百四十年・再興六十周年記念事業において顕著な功績があったとして、神道学科の高野裕基助教と国史学科の長谷川怜助教に表彰状が贈られた。

同記念事業では田浦雅徳委員長のもと記念誌『飛躍と発展の十年』が発刊され、また大島信生部会長のもと佐川記念神道博物館にて記念展示「伊勢と皇學館の140年」が開催された。高野助教、長谷川助教は両方に携わり、執筆・編纂や展示計画、実施、記念展示図録の作成に従事。献身的な仕事ぶりで同記念事業の完遂に大きな役割を果たした。

皇學館ミュージアム

貞明皇后の 神宮皇學館行啓フィルム



学内を歩かれる貞明皇后(現在の2号館前付近)

※映像は10月中に本学デジタルアーカイブで公開予定(公式ホームページの図書館・出版部からアクセスできます)

大正期の皇族の姿、皇學館学内の様子を伝える

令和3年夏頃、神道博物館から1本のビデオテープが見つかった。テープをデジタル化すると、大正時代に神宮皇學館へ行啓された貞明皇后のお姿が映し出された。

大正11年(1922)11月、皇后は病身の太上天皇の健康回復を祈願するため伊勢神宮に参拝。その後、神宮皇學館に行啓され授業を台覧された。フィルムは神宮参拝を終え宇治橋を渡る場面から始まり、神宮皇學館の本館(現在の記念館)に入った後、宇治山田市内の女子生徒らの奉迎を受ける姿、山田駅(現在の伊勢市駅)に到着する様子などが映されている。フィルム本体は劣化のため失われたと考えられるが、大正期の皇族の姿、当時の皇學館の学内の様子を伝える貴重な史料である。

創立140周年・再興60周年記念展示「伊勢と皇學館の140年」(5月2日~8月31日)は盛況のうちに終了した。期間中の来場者は2,076名。

国史学科 助教 長谷川 怜

令和3年度は2件の受託研究を実施

受託研究とは学外諸団体等から研究・調査等の委託を受け研究を行い、その研究成果を委託先に報告するものである。令和3年度は2件の研究委託を受けた。地域シンクタンクとしての機能を一層高め、産官学の連携強化、研究を通じ社会貢献を図っていく。

玉城町明るい未来づくりに関する調査研究

研究担当者●池山 敦(教育開発センター 准教授) 契約相手先●玉城町 受託期間●令和3年5月19日～令和4年3月18日

地域活性化対策(活動計画策定事業)支援業務委託

研究担当者●池山 敦(教育開発センター 准教授) 契約相手先●宿田曾地域活性化協議会 受託期間●令和3年12月21日～令和4年3月31日

令和4年度チャレンジプロジェクトに2件採択

チャレンジプロジェクトは大学全体の活力向上に寄与することをめざし、「学内活性化」「地域との連携」に関わる学生からのチャレンジ企画を募集し、優秀な企画に活動支援金を支給する取り組みである。

【地域との連携】地元の食材を通して海と陸の豊かさを守ろうプロジェクト

代表●稲本菜奈(教育3) サポート教員●駒田教授

今までの活動は、三重県の豊かな食材を生かすことで将来の消費者となる子どもたちやその保護者の地域食育への関心を高めてきた。活動の中で行政や第6次産業に取り組むベルファームとも繋がりを持つことができたので、今年度はそれら団体と連携を組みながら今日的課題であるSDGsやフードロスといった問題もテーマに加え、地域との連携をさらに深め教育研究に生かしていく。

【地域との連携】中学校理科の教材開発と授業支援プログラムの構築プロジェクト

代表●杉山瑞姫(教育4) サポート教員●澤助教

理科教育学および生物研究室では、これまで昆虫を使った観察・実験教材の開発とそれらを用いた授業支援を保育所・幼稚園、小学校、高等学校で行ってきたが、中学校ではまだ行っていない。そこで研究室に中学校二種免許(理科)に必要な単位修得をめざす学生がいることもあり、今年度は中学校1年生に焦点を絞り、観察・実験の教材開発及び授業支援プログラムの構築を行う。

令和4年度 科研費新規採択課題一覧

Table with 3 columns: 研究課題名, 研究期間, 研究代表者. It lists six research grants with details on titles, periods, and researchers.

令和4年度は、本学より6件の研究課題が科学研究費助成事業(通称「科研費」)に採択された。(左表のとおり) 科研費は、人文学、社会科学から自然科学までのすべての分野にわたる、基礎から応用までのあらゆる学術研究を進展させることを目的とした競争的研究費で、ピアレビュー(専門分野の近い複数の研究者による審査、評価するシステム)による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して研究費が助成される。

令和4年度科研費に6研究が採択

卒業生奮闘中!



うめきた みずき 梅北 瑞輝さん

宮崎県立飯野高等学校指導教諭(宮崎県、イパーチャイ) 文部科学省事業事務局長 副局長、W/L連携、地域団体APEエビの代表、全国高校生マイプロジェクト宮崎実行委員長、地域みらい留学推進協議会理事、えびの市起業家応援団等 国史学科(大学36期・平成13年3月卒)

卒業後、念願であった高校教師となり、平成20年から宮崎県立飯野高校で教鞭を執っています。本校の教育の柱、地域を学びの舞台として取り組む「探究型学習」が全国的に注目を浴び、現在は指導教諭(スーパーティーチャー)として「地域探究活動」の授業を公開したり、県内外で教員研修や講演を行っています。 学校の魅力化計画の一つとして平成26年に始まった探究型学習ですが、自発的、主体的に行動するようになった生徒を目の当たりにして非常に手応えを感じています。最初はモデルを作り、それを生徒が踏襲する形で進めました。今では上級生の活動を見本に下級生が自分の関心のある事柄を深掘りしてさまざまなプロジェクトを立ち上げています。たとえば、自衛隊に興味があった生徒は「国際平和」をキーワードに考えを掘り下げ...

*スーパーティーチャー：優れた指導力を持つ教諭として認定されるもので、授業を公開したり研修会の講師を務め、県内教員の指導力向上を図る。

3年ぶりに文学散歩開催

6月26日に国文学会主催による文学散歩が行われた。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった今回は、学生13名、教員7名、計20名が参加した。以下に学生の感想を紹介する。

歴史ある伊勢の街を歩いて

国文学科3年 山本陽菜

今回の文学散歩では、伊勢市にある文学ゆかりの史跡を訪れた。道のは、外宮と内宮を繋ぎ、かつて伊勢参りで賑わった古市街道から伊勢神宮の手前におはらい町まで。当日の朝は雨が降っていたが午後になると雨が上がり雲ひとつない快晴で、伊勢の魅力が存分に味わうことができた。



麻吉旅館前を散策

私が今回の文学散歩で最も印象に残ったのは、最後に訪れた神話の館である。神話の館は、おかげ横丁にあり、日本神話の世界を映像と立体展示で体感できる施設だ。立体展示では日本神話に出てくる神が和紙で製作されており、色がついていないため自分で想像しながら楽しめるところが特に印象に残った。

伊勢神宮のような有名な観光地しか行かなかったことが無く、伊勢市の歴史や史跡について全く知らなかった。しかし、今回の文学散歩では伊勢市にある文学ゆかりの史跡や資料館を訪れ、先生方の説明を聞くことができた。徒歩でなければ気が付かない場所が多く、普段は通り過ぎてしまう場所にこのような歴史があったのかという新しい学びが多くあった。また、訪れたところがある場所でも今まで気づかなかったことや新たな発見があり、とても有意義な時間だった。



猿田彦神社駐車場にある本居宣長の歌碑



浦田町にある澤瀉久孝博士の墓前

Regional Collaboration 地域連携

令和4年度 オープンキャンパスを開催 のべ1691名が参加 キャンパスツアーも再開

恒例のオープンキャンパスが6月から8月にかけて開催された。過去2年間は予約者のみの参加としていたが、今年度は予約不要で定員制限を設けず開催した。

未来発見セミナー(6月)、模擬講義(7月)、体験型プログラム(8月)、AO対策講義(8月)、入試説明会、個別相談会、キャンパスツアーを実施し、のべ1691名(生徒:1141名、付添者550名)が来場する盛況ぶりであった。

未来発見セミナーでは卒業後、教員・神職・公務員や一般企業等で活躍している館友を講師に迎え、大学時代に取り組んだことや就職活動、仕事のやりがい等をお話いただいた。入学から就職のことまでイメージしやすいと大変好評であった。

体験型プログラムでは、蓄音機を使用し実際に音を聞いて体験する「音の歴史」(国史学科)やmicro:bitを用いたリモコンカープログラム作成を体験する「小学校プログラミング教育の実践例」(教育学科)といった大学ならではの専門性の高い講義が行われた。

ほか、コロナ禍により過去2年間実施していなかったキャンパスツアーを再開した。各学科に分かれ、よく利用する施設を中心に案内・説明する内容で、多くの学生スタッフが活躍した。



キャンパスツアーで説明する学生



装束着付け体験も盛況

第23回 高校生英語スピーチコンテスト 開催のご案内

スピーチ動画募集中

文学部コミュニケーション学科では三重県教育委員会・三重県高等学校英語教育研究会の後援を得て、高校生の皆さんを対象とした第23回高校生英語スピーチコンテストを開催いたします。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、スピーチ動画を募集します。日頃の勉強の成果を試すこの機会に、ぜひとも皆さんのご応募をお待ちしております。実施要項・応募書類については右記をご覧ください。



令和4年
応募期間 9月16日(金)~10月14日(金)必着

お問い合わせ先
皇學館大学
文学部コミュニケーション学科研究室
e-mail commu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館大学と鳥羽商船高等専門学校による包括連携協定締結式



今後の展開に期待を寄せる河野学長(左)と和泉校長

締結式で鳥羽商船高等専門学校(和泉校長)の和泉校長は「STEM教育のA(教養・アイト等)の部分で皇學館大学と強く連携できることを期待している。また両校では地域課題学修を展開しており、これまでも皇學館大学が推進してきたCLL活動の中で指導・協力を得てきた。今後の多面的な展開が楽しみです。」と話した。

河野学長は「伊勢志摩にある高等教育機関として文理の枠を超え、それぞれの持っている力を助け合い、双方の学生が豊かに学び、地域の活性化の力となることを心より願っている」と話した。7月21日には本学にてキックオフイベントが開かれ、鳥羽商船情報機械システム工学科の江崎修史教授が講師として登壇し学生起業の取り組みを紹介。学生たちは熱心に耳を傾けていた。

*STEM教育

科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、アート(Art)、数学(Mathematics)の5つの領域での学習を社会での問題発見・解決に生かしていく教科等横断的な学び。

① 共同教育及び共同研究等の実施とこれに伴う学生・教職員の交流

② 小中学校への出前授業の共同実施
③ 地方創生事業(地域振興事業)の共同実施
④ 両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の提供
⑤ 国際交流に関すること
⑥ その他前条の目的を達成するために必要と認められる事項

6月24日に本学で行われた締結式で鳥羽商船高等専門学校(和泉校長)の和泉校長は「伊勢志摩にある高等教育機関として文理の枠を超え、それぞれの持っている力を助け合い、双方の学生が豊かに学び、地域の活性化の力となることを心より願っている」と話した。7月21日には本学にてキックオフイベントが開かれ、鳥羽商船情報機械システム工学科の江崎修史教授が講師として登壇し学生起業の取り組みを紹介。学生たちは熱心に耳を傾けていた。



質問に答える江崎教授

文理の枠を超えSTEAM教育を推進 鳥羽商船と包括連携協定を締結

実社会が抱える諸問題の解決に分野横断的な視点からアプローチし社会的価値を創造できる資質・能力を持った人材を育成しようと、本学と鳥羽商船高等専門学校は次の項目で包括連携協定を締結した。協定の有効期間は締結から5年間。

Global グローバル

留学生INTERVIEW

本学では世界各地の留学生が日本の伝統文化や神道について学んでいます。本企画では令和2年に本学がポーランド・ワルシャワ大学と締結した学術交流協定(学園報84号参照)に基づき、研究生として今年4月に来日した同大学院生のカタジナ・ドウリアシィグワワさんに日本での生活や研究の成果について伺いました。

——日本に興味を持ったきっかけは何ですか。
カタジナさん ● テレビで見たアニメ「BLEACH」がとても面白かったのがきっかけで、日本の文化や音楽、日本語のきれいさに興味を持ちました。

——研究テーマの一つに「祭祀を神職の立場から理解する」を掲げた理由を教えてください。
カタジナさん ● 4年前、学習院女子大学に1年間留学した際、巫女として神社に奉仕する機会がありました。その時、参拝者が立ち入れない場所に入らせていただき、神職の仕事に興味が増えました。

——カタジナさんが思う神道の特徴とは？
カタジナさん ● 死後を考える他の宗教と違い、神道は「生きている今」に集中していると思います。

——Instagramで留学生活について発信していますが、反応はいかがですか？
カタジナさん ● 皇學館大学を知らない人にもその魅力を伝えたいと思っています。私のInstagramを通して東京から伊勢に来てくれた人もいました。祭教室などお気に入りの写真をアップしているのが、たくさんの人に見ていただきたいです。

——本学で神道や神職について学ぶ中で発見はありましたか？
カタジナさん ● 玉串奉奠の作法について教えていただいたことが印象に残っています。最初は「簡単そう」と思っていました。簡単ではありませんでした。神様のために一番きれいに見えるよう玉串の持ち方から指の形、頭を下げる角度まで、注意深く行わなければいけません。すべての所作に理由、根拠があります。また、皇學館大学は祭祀や神道に関する資料が充実していて素晴らしいです。



留学生サポーターの学生たちと記念撮影するカタジナさん(前列左から3人目)。充実した留学を終えポーランドに帰国した

カタジナさんのInstagramはこちらから!
ユーザーネーム nemi_etc



Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

3年ぶりに「萼の会地区別教育懇談会」を開催



大学の教職員が各地に赴き、本学の教育方針や個別の修学状況について説明を行う「萼の会地区別教育懇談会」を8月27日～9月3日にかけて開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により過去2年は中止しており、令和元年度以来の開催となった。開催した全国4会場(伊勢・名古屋・神戸・福岡)には計200名の保護者の皆様にご参加いただいた。「全体会」では萼の会本部役員の挨拶に続き、河野訓学長(神戸会場は齋藤平学生部長)が大学の現況について説明した。「個別懇談会」では各学科の教員が保護者に対して、履修状況や成績および学生生活について説明し、保護者からの質問や相談に適宜対応した。また、個別懇談会と並行して、就職担当者等による相談ブースも設置した。

「萼の会」は、本学の保護者会の名称で、学生を「花」に、保護者を花を支える「萼」に例えたことに由来する。今後とも、萼の会の運営へのご協力をお願いします。

皇學館中学校生徒が「能楽」を満喫



皇學館中学校で能楽を学ぶ特別授業が5月24日、能楽鑑賞会が6月8日にそれぞれ行われた。これは文化庁主催「文化芸術による子供育成推進事業」の一環。大槻能楽堂(大阪市)の方々が本校を訪れ、特別授業では650年以上続く能楽の歴史や面の特徴、役柄などをクイズを交え説明した。本校の校歌を能楽のメロディーにのせて披露したり、生徒が小鼓や太鼓の演奏を身振り表現する「エア囃子」を楽しむ場面もあり、伝統文化である能楽を身近に感じたようだ。能楽鑑賞会では「安達原」を堪能した。

2年A組の東村虹都さんは「言葉が少し難しかったが、声の強弱や演じ手のしぐさなどでストーリーをたどることができた。能楽は奥深いと思った」と感想を話した。

皇學館大学出版部
出版物のご案内

皇學館大学出版部では学術図書・啓蒙図書・教科書・参考書の刊行を行っています。

講演叢書	各B6判・本体477円+税
第191輯	ナンバーバル・コミュニケーションの役割 文学部教授 芳賀康朗著
第192輯	ハザードマップと旧版地形図の読み方 文学部准教授 桐村 喬著
第193輯	言語の違いが物事の捉え方に及ぼす影響 文学部助教 玉田貴裕著
第194輯	令和を生き抜く感情コントロール方略 文学部准教授 高沢佳司著
第195輯	海を渡った日本古典 文学部教授 クリストファー・メイヨー著
第196輯	英語教科書からみる英語教育の変遷 文学部教授 豊住 誠著

ご注文の際は、大学ホームページからお申込みください。



クラブ別 配分金額状況(大学)

指定先クラブ名	件数	配分金額(円)
1 硬式野球部	10	130,137
2 空手道部	2	14,694
3 駅伝競走部	2	5,901
4 祭式研究部	2	78,025
5 雅楽部	1	797
6 柔道部	3	29,540
7 排球部	3	131,922
8 合気道部	1	49,583
9 よさこい部「雅」	1	4,885
10 茶道部	1	9,770
11 居合道部	1	10,000
計	27	465,254
代行手数料*		11,746
合計		477,000

*代行手数料: クレジット会社等の決済代行に伴う手数料。各クラブへの配分金額は、寄付金額から代行手数料を差し引いた金額となっております。

令和4年6月22日、本部大会議室にて皇學館クラブ応援メッセージ募金授与式が行われた。
令和2年11月に開設した「皇學館クラブ応援メッセージ募金」は、クラブ活動に力を注ぐ学生・生徒への支援をお願いするもの。贈られたメッセージは本学公式HP上の「寄付金ページ」にて公表し、募金は寄付者が指定したクラブに直接配分される。授与式の冒頭で、コロナ禍の大変な状況の中、ご寄付をいただいたことに感謝の気持ちを述べた河野訓学長は、今後のクラブ活動の強化・充実に役立ってほしいと選手たちを激励。その後、クラブ代表者に寄付金が手渡された。

ご寄付をいただいた皆様にごお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



皆様からの応援に感謝し、活躍を誓う部員たち

クラブ応援メッセージ募金授与式を開催



本番に向け、力の底上げを図る

駅伝競走部監督 日比勝俊
コロナ禍で不安な日々を学生らも送っていますが、そんな中でも、応援して下さるたくさんの方々、明るいニュースをお届けできるような挑みます。みなさんのご支援ご声援をよろしくお祈り致します。

今年も出雲、全日本の2大駅伝への出場が決まっています。出雲は12位、全日本は16位。「変化」と「成長」の歴史を作る挑戦をスローガンとしました。

日頃より駅伝競走部の活動にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。
令和4年もいよいよ秋のレース期を迎えようとしています。駅伝シーズン到来です。
一昨年は9月初旬まで春の授業が延長され、昨年は8月に入って新型コロナウイルス感染症が伊勢でも拡大したこともあって、毎年行っている8月の強化合宿を中止しました。今年は、例年通り、信州・菅平高原での夏合宿が実施されています。
この2年で部員数も大幅に増え、陸上・長距離だけの合宿としては、非

関東校にはない大所帯での合宿です。今夏は特に暑さの厳しい8月でしたので、この菅平高原は、朝夕20℃を下回る環境に、長距離の選手としては、とても練習効率が上がります。また標高1300mを超える準高所環境は心肺機能を向上させるのにもってこいの場所。そんな中で、トラック・ロード・クロスカントリーコースと多彩な練習コースを利用して強化に取り組んでいます。今年も出雲、全日本の2大駅伝への出場が決まっています。出雲は12位、全日本は16位。「変化」と「成長」の歴史を作る挑戦をスローガンとしました。



仲の良さも強さの秘訣

2年ぶりの合宿地より
駅伝競走部近況報告(令和4年9月1日)

全国高校総体・総文祭 結果

7月23日から8月23日まで、1カ月にわたり四国で開催された全国高校総合体育大会「躍動の青い力 四国総体2022」と7月31日から8月4日に行われた全国高校総合文化祭「とうきょう総文2022」。総体にはバドミントン部と陸上競技部が出場し、男子110mHで打田快生さんが4位入賞を果たすなど日頃の練習の成果を発揮した。総文祭には写真部の2名が出展した。奥田春斗さんの作品は多重露光の技法により、1枚の作品に2枚分の画像を重ねている。(打田さん、竹本さんは本紙8面に関連記事)

写真部には奥田春斗さんと竹本紘子さんが出展した。奥田さんの作品は多重露光の技法により、1枚の作品に2枚分の画像を重ねている。(打田さん、竹本さんは本紙8面に関連記事)

全国高等学校総合体育大会

●バドミントン部		
女子学校対抗		2回戦進出
女子個人対抗ダブルス	吉居 要	2回戦進出
	澤原 黎	
女子個人対抗シングルス	梅本りずむ	出場
	荒木 宥羅	
男子個人対抗シングルス	吉居 要	3回戦進出
	梅本りずむ	
坂本大芽		出場

●陸上競技部		
打田 快生	110mハードル	4位(14秒87)
河北 柊真	110mハードル	準決勝進出(14秒70)
中山 竣介	三段跳	予選出場(13m93)
田中大智	棒高跳	出場
海老原有 緯子	棒高跳	15位(3m40)
土井 なつみ	三段跳	34位(11m14)
白井 滯奈	棒高跳	出場
浅井 琥桃	走高跳	出場

全国高等学校総合文化祭

●写真部	
竹本 紘子	出展
奥田 春斗	出展



総文祭に出展した奥田さんの作品「光の記憶」

令和5年度生

皇學館高等学校・中学校募集要項

中学校入試が大きく 変わります!

詳しくはホームページの募集要項をご覧ください。

皇學館高等学校

募集定員	315名(内部進学者含む)
募集コース	進学コース・特別進学コース
願書受付	令和4年12月5日(月)～ 令和5年1月5日(木) 15:00まで
出願方法	インターネット(WEB)出願
試験日	令和5年1月25日(水)
教科	国語・数学・英語・理科・社会

オープンスクールのご案内

下記日程以外の見学も可能です。
詳しくはお問合せください。

第2回オープンスクール 「入試問題を知ろう!」

10月9日(日) 10:00～13:00

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、
入試過去問題解説(英語・数学)、入学相談会 など

第3回オープンスクール 「クラブ活動を知ろう!」

11月13日(日) 10:00～13:00

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、
生徒によるクラブ紹介、クラブ見学、入学相談会など

問合せ先

皇學館高等学校 TEL 0596-22-0205

皇學館中学校

新たに「S日程入試」を導入!

募集人数	S日程(特別専願)10名程度・A日程(一般・専願)25名程度、併せて35名	
S日程		
出願期間	令和4年12月12日(月)～ 令和5年1月3日(火) 15:00まで	
出願方法	インターネット出願	
試験日時	令和5年1月5日(木) 8:35集合	
入試科目	PBLプレゼン型	館友推薦型
	基礎学力試験、課題解決調べ学習とプレゼンテーション	基礎学力試験、作文

A日程		
出願期間	令和4年12月12日(月)～ 令和5年1月6日(金) 23:59まで	
出願方法	インターネット出願	
試験日時	令和5年1月8日(日) 8:35集合	
入試科目	一般	専願
	国語・算数・社会・理科・英語 ※国・算必須。社・理・英から2教科選択し、得点の高い1教科採用	国語・算数 ※英語外部試験の有資格者に加点

オープンスクールのご案内

第3回オープンスクール2022 ～皇學館で学ぼう～

11月6日(日)

学校説明・入試説明・入試対策授業 など

※HPにて申込が必要になります。約1カ月前から受付開始予定です。

問合せ先

皇學館中学校 TEL 0596-23-1398(代)

本校の魅力を多面的に発信

中高でオープンスクール開催

6月26日に皇學館中学校で「第1回オープンスクール2022～皇學館で楽しもう～」が開催された。学校紹介では生徒代表が学校行事や部活動について説明。写真やスライドを多用し、小学生にもわかるよう平易で簡潔な言葉でまとめられた内容は、日頃の朝スタ(朝学習)や授業で培った発信力を十分に発揮するものであった。体験授業は「算数」と「英語」で実施された。算数は「日常生活をプ

ログラミングで繋げよう」と題し、歯磨きが完了するまでの手順を①歯ブラシを持つ②歯磨き粉をつける…と分解。何気ない日常の行動を数学的に考えた。英語ではiPadを使い、外国人講師と画面越しにマンツーマンでオンラインレッスンを行った。さらに個人相談ブースや動画ブース、制服展示コーナーを設けたことで、より詳しく本校の魅力を発信することができた。第2回は8月20日、高校は9



保護者も参加しての体験授業

月3・4日に第1回が開催され、いずれも参加者から“満足”の声が多く聞かれたイベントとなった。

中高合同

和歌山県へ分散型修学旅行

南紀白浜へ3年生が修学旅行を実施。新型コロナウイルス感染防止の観点から6月21日、22日は1～5組、同月22日、23日は6～11組と分散しての参加となった。現地では鬼ヶ城や白良浜、那智大社などの観光地を巡り、仲間との旅を満喫した生徒たち。以下に感想を紹介する。



友だちとの仲を一層深めた2日間

3年8組 鈴木悠太

新型コロナウイルスの影響で行先が北海道から和歌山に変わったり、延期になったりと不安が多い中、自分は本当に楽しめるのだろうかという気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に行ってみると、昔家族で訪れたことがある場所でもその時とは全く異なる視点で楽しめ、またバスガイドさんによる分かりやすい説明のおかげでさらに知識を深めることができ、いつの間にか最初に感じていた不安がなくなっていました。

特に印象深いのはホテルでの自由時間です。友だちと一緒に寝てご飯を食べるのは最初で最後の経験だったし、普段学校では見られない友だちの意外な一面を知ることができ、より一層仲が深まったと思います。今回、さまざまな制限がある中で自分たちが楽しめるよう旅行を企画して下さった先生方やバスガイドさん、何より、修学旅行に行かせてくれた家族に感謝したいと思います。

修学旅行での学びをこれからに生かす

3年8組 高橋彩

南紀白浜の修学旅行を通して、これからの学校生活に生かせることを多く学びました。ひとつは人と関わることの楽しさです。学校での仲間と2日間共にし、今まで知らなかった新たな面を発見したり、見学先で出会った方々と地域の話共有したり、人と接するからその楽しさをたくさん実感しました。また、パンフレットや画面の中でしか見たことなかった南紀白浜の風土や景色に触れ、地域や環境によって起こる自然の変化に感動しました。

新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができない中、クラスでの初めての遠征はとても充実した時間でした。それは集合時間に遅れないなど、当たり前のことを全員でできた結果だと思います。「望ましい集団のあるべき姿を知り、豊かな情操と深い見識を養う」という目的を果たせた修学旅行だったと思います。学んだことをここで終わりにせず、これからにつなげていきます。

高校

1年生が志摩市で校外研修

6月3日、1年生が志摩市の「志摩自然学校」にて研修を行った。午前中は真珠講座とプレスレット作り、午後は海岸に移動しシーカヤック体験を楽しんだ生徒たち。皆で力を合わせ、協力し、交流を深める場となった。



海の環境を守る活動をしていきたい

1年A組 迫本菜那

私は校外研修でたくさん海の恵みに触れることができました。

真珠講座では真珠に関する色々な知識を学びました。真珠は海の環境を守ればずっと作り続けられることや、そのことにつながるSDGsの目標など“今”に関係していることを学びました。シーカヤックでは無人島でウニやカキ、ウミウシなどさまざまな生物に出会いました。ウミウシは小さく青色をしていてかわいかったです。

今回の研修を通して私はこのような体験が次世代にも受け継がれるようにした方がいいと思いました。これからは海の環境を守る活動に少しでも積極的に携わっていきたくと考えています。



一生の思い出に

1年A組 三島香里奈

私は今回の校外研修でいろんなことを学ぶことができました。

1つ目は真珠についてです。真珠は世界最古の宝石と言われていて、1888年に英虞湾で養殖が始まったことを知りました。また、真珠ができるまで約2年もかかること、7.5ミリの真珠をとるにはアコヤガイの命を奪うことになること、真珠はとても価値のある宝石だと思いました。

2つ目はシーカヤックです。ボートを漕いでいた時、インストラクターの先生から「上手になりましたね」と言われ、うれしかったです。無人島に着いたら、理科の先生が話していた海藻のミルがたくさん生えていました。ウニも見つけました。

今回の研修を通して私はクラスのみならず仲良くなることができ、一生の思い出になったと思います。

中学校

アクティブ スチューデント
Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

世界的コントラバス奏者への第一歩!
大西梓菜^(高3)さんがWinnersコンサートに参加

昨年9月のストリングアベニュー国際コンクール・オータム2021で第1位(コントラバス)に輝いた吹奏楽部の大西梓菜さん(高3)が6月29日から7月5日にかけてポーランドで開催された、上位入賞者によるWinnersコンサートに出演。ソロ演奏やオーケストラとの共演、世界各地の“音楽家の卵”たちとの交流を楽しんだ。「今回の経験を通し、音色や表現の殻を破る必要性などたくさん課題が見つかりました。何より勉強になったのは、同年代の出演者の演奏を聴いたこと」と大西さん。「皆さんが個性を発揮しているのは、曲や作曲家に対して真剣に向き合い、掲げた理想に近づけようとしているから。演奏家としての心構えだけでなく、内向的になっていた自分の演奏スタイルや将来像を見直すきっかけになりました」。また、とくに印象に残った出演者として16歳の韓国人ピアニストYumin Choさんを挙げ、「彼の演奏は聴く人が音の意味や意志を汲み取ることができ、曲の解釈に多くの時間をかけていると感じました。私も魅せる演奏をし、いつか彼と共演できる日を楽しみに頑張ります」と新たな目標を語る。



現地の音楽学校でレッスンを受けた大西さん。教授(prof. Waldemar Tamowski)と2人で

未来の音楽界を担うであろう若き演奏家の一人として歩み始めた大西さん。今後の活躍に注目だ。

今後の活躍に注目だ。

春季リーグ本塁打王の**村田怜音^(教育3)さん**
皇大初のNPBプロ野球選手をめざし練習の日々

今年の三重県学生野球春季リーグで7季連続9回目の優勝を果たした本学硬式野球部。同リーグで本塁打王に選出されたのが村田怜音選手(教育3)だ。身長196センチ、体重110キロの恵まれた体型を生かした長打力が魅力。三重県学生選抜メンバー(デジタル版第2号参照)として参加した8月のJABA 高山市長旗・飛騨市長杯高山大会では中京学院大戦で中越えにソロ本塁打を放つなど存在感を見せつけた。



目標は「皇大初のNPBプロ野球選手」。実現のため、「小さなことの積み重ね(積土成山)がプロに行くための道。一球・一振りで仕留める力とスピードボールに対応できる力を身に付けるには一日たりとも鍛錬を疎かにはできない」と自らを鼓舞する。意識するプロ野球選手は幼馴染でもある中日ドラゴンズの岡林勇希選手だ。オフシーズンには一緒に練習や食事をする中で、早く同じ舞台に立ちたいと意気込む。「今は明治神宮



公式戦でホームランを打つ村田選手

野球大会に出場することが最優先。自分がチームを引っ張る立場であることを忘れず、秋の三重県リーグ戦では8本のホームラン(1試合1本)を打ち、かつ神宮でもホームランを打って名を知れ渡らせたい。昔から“史上初”という言葉が好きと語る村田さん。皇大初のNPBプロ野球選手への期待がかかる。

打田快生^(高3)さんが
全国高校総体 男子110mHで4位入賞

四国を中心に開催された全国高校総体「躍動の青い力四国総体2022」。同大会陸上男子110mHが8月7日に徳島県鳴門市で行われ、打田快生さん(高3)が3位と0秒01差の14秒87で4位入賞を果たした。「本来ならもっと上をめざせた」と悔しさを滲ませつつも、「当日はあまり調子が上がらなかった中で4位に入賞でき、素直に嬉しいし、ホッとした」と打田さん。同時に、インターハイにしっかりと調子のピークを合わせてくるトップアスリートたちの高い調整力を実感したようだ。



110mHを通して、探究心と頭を使って練習する大切さを学んだと語る打田さん。そんな打田さんと切磋琢磨し合う陸上部仲間がいる。同種目に出場した河北柊真さん(高3)だ。「ハードリング(ハードルをとび越すこと)が非常に上手く、人一倍の向上心・研究心でもって努力し続けられる人」と一目置き、互いに励まし合って鍛錬を重ねてきた。卒業後は別々の大学で競技を続けるふたり。打田さんは関東の名門大学に入学を希望していて、「今後は学生だけでなく、実業団の選手たちとも戦うため、さらに実力をつけて、大学では日本一をめざしたい」と意気込む。さらなる活躍に期待大だ。



互いの健闘を称える打田さん(左から4人目)と河北さん(同3人目)

竹本紘子^(高3)さんの作品「私の先生」が
全国高校総文祭に出展

今年1月22日に開催された県高校写真連盟による第40回新人写真コンテストで本校写真部の竹本紘子さん(高3)の作品「私の先生」が応募総数425点の頂点である金賞に輝き、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会(7/31~8/4)に出展された。

「多くの先生方にモデルになっていただき、時間をかけて撮影した作品だったので本当にうれしい」と竹本さん。こだわりは“表情”。「私にしか撮影できない表情を引き出したい」と話す。同作品でもそれぞれの先生の個性や特徴を表すにふさわしい場所や状況、背景を考えるのに苦労したと言い、「たとえば



現代文の先生は陽気で楽しい授業をしてくれるので、写真を見た瞬間に教科や性格がわかる表情が出るよう、会話しながら撮影しました。

写真の魅力を「見る人によって感じ方が違うところ」と竹本さん。撮影については「身の回りの人を撮るとき、表情やポーズを決めてしまいがち。でも、私は今生きているその瞬間、みんながいつも私に見せてくれる表情を撮りたい。難しいけど、喜んでもらえる撮影してよかったと思います」と譲れないポリシーを語る。今後の作品が楽しみだ。



第40回新人写真コンテストで金賞を受賞し、全国高校総文祭に出展された「私の先生」